

(様式第4号)

第5回 上田市子ども・子育て会議 会議概要

1 審議会名	上田市 子ども・子育て会議
2 日時	令和1年11月15日 午後1時30分から
3 会場	ひとまちげんき・健康プラザうえだ 2階 多目的ホール
4 出席者	金山会長、若林副会長、浅川委員、安藤委員、飯島委員、下村委員、高井委員、瀧本委員、土屋委員、中澤委員、橋詰委員、畑委員、丸山委員、山崎委員 (欠席委員) 金委員、佐藤委員、滝澤委員、寺尾委員、保月委員、宮下委員、
5 市側出席者	小林健康こども未来部長、山賀子育て・子育て支援課長、宮澤保育課長、遠藤母子・精神保健担当係長、川口母子・精神保健担当係長、間宮保育担当係長、下林保育担当係長、堀内放課後こども育成係長、宮下障がい者支援担当係長、小山子育て・子育て支援担当係長、高橋子育て・子育て支援担当係長、渡辺子ども家庭福祉担当係長、小宮山発達相談センター次長、半田主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和元年12月13日

協議事項等

- 1 開 会 (山賀子育て・子育て支援課長)
- 2 あいさつ (小林健康こども未来部長)

3 会議事項

(1) 量の見込・確保方策について

- ・事務局から資料の確認、資料に基づく説明
部会報告事項(事前資料1)
第5章(当日資料1)
- ・質疑・御意見

(委員)

(第5章P8)0歳児についてまだ精査が必要というが、どこから数字がでてくるのか。

(事務局)

今回の資料は、入園申し込み前のもので出してあるが、入園申し込みを受けて再度0歳については数字の見直しが必要になる。新しい数字に変えさせてもらいたい。

(委員)

保育部会の議事録だけ次回の全体会議で検討するとなっているが、どのようにしたらいいか。

(事務局)

委員のみなさんから全体を通して意見等をいただき良ければご了承いただきたい。

(委員)

今の時点でこのまま認めていただくということで大丈夫か。
異論ないので今の時点で承認ということにさせていただきます。

(2) 第2次上田市子ども・子育て支援事業計画について

・事務局から説明

第1・3・4・6章(事前資料2)

第2章(当日資料1)

事前資料修正箇所(当日資料2)

方策別課題シートから新規・充実させた施策等(当日資料3)

・質疑・御意見

(委員)

1章4ページ3行目「行政期間」。相互協力なのでこの「期間」は時間的な期間でなくて団体的な「機関」に修正していただきたい。

「第2次総合計画」何ヵ所もでていますが、2次が漢数字なのか数字の2なのか。決まっているなら統一した方が全体的にまとまると思う。

(事務局)

確認して統一を図る。

(委員)

第2章7・8ページ(10)が重なっているので修正してもらいたい。

(委員)

第3章14ページで認定子ども園への移行に関する施設整備の補助について書かれているが、どの程度のことを考えているか。

⑥で幼稚園等の施設を既存の建物の資源を利用すると書いてあるが、3歳児以上と2歳児では使う施設がかなり違うと思うがそのあたりのところを話しているのか聞かせて欲しい。

認定子ども園への移行を推奨しているように受け取るが、幼、保、小、中の連携という言葉を使うとき認定子ども園はどこへ入るのか。

(事務局)

認定子ども園は昨年度まで2園、今年度から5園移行して7園に増えた。

認定子ども園は比較的新しい建物ではあるが、今後改築等計画がでてくることを想定して新たに要項を設けて補助していく。

認定子ども園は1号、2号、3号、教育と保育と分かれており、補助金を流れも仕分けもはっきりさせ補助していこうという考え。

幼、保、小、中連携の中での認定子ども園の位置づけについて、把握はできていないが、認定子ども園の中でも保育所型なのか、幼保連携型なのか、幼稚園型なのか、その型によってになると考える。保育所型であれば「保」の部分の意味合いが強く、幼保連携型幼稚園型であれば「幼」の部分が強くなってくると思う。ただ、正確なところは、認定子ども園まで含めた一般的に使っている言葉がまだないと感じるので、確認したい。

(委員)

市民の皆さんがこういう文章を見たとき、どこに入ってるのかと思う方もいるので、国の話も聞いてしっかりした答弁ができるようにしてほしい。

(委員)

第4章 15 ページ「多様な保育のサービスの充実」現状と課題の二つ目の○「周囲からあれば良いと思うサポートについては、一時保育とする回答が多く」とあるのですが、「周囲からあれば良いと思うサポート」という文言が調査票でもこうなっていたのか。誰が周囲からあれば良いと思っているのか、親たちが周囲から受けられるといいと思っているサポートの中では一時保育のニーズが高かった、と受け止めるが、少し日本語として分りにくいと思う。

16 ページ②病児保育「更なる周知を図ります」書かれているが、こういうものがあると伝えるのはもちろんだが、どういう時に利用できる、どういう順番で利用する、といった利用につながる説明会のようなものを地域子育て支援拠点で開いたり、病時保育の場所に行かなくても身近な子育て広場や支援センターで事前登録できるといった促進、利用に繋がる支援という視点も入れていただきたい。

(事務局)

アンケートからもってきているか、というところと 15 ページの表記の点は確かにここだけ読むと大変分りづらいので表現を改めたい。

病児保育の更なる周知については、気持ちの部分で更なるをつけてしまったかと思う。

地域子育て支援拠点をつかった説明会などまだできてない部分もあるので工夫をして広めていくようにしていきたい。

(委員)

18 ページ「地域等の協力」⑤の最初の○「児童の健全育成には高齢者や育児経験豊かな主婦等の協力が必要」とあるが、主婦が必ずしも育児経験が豊富で、主婦ではない人は豊富ではないのか、ということであったり、高齢者や女性に無償の子育て支援を要請している感じにしか聞こえないので、上田市が考えていることはそういうことではなく地域全体で子育てを支えるということだと思うので表現の工夫をお願いしたい。

施策の方向 (5)「子どもの生きる力の育成」現状と課題 21 ページ「子どもの数の減少は、遊びを通じた仲間の形成、社会性に発達に大きな影響があると言われています」という部分。少子化社会に育っていくと自分達

が子育てをするビジョンが見えない、なんとなく学習で身につけていた子どものあやし方とか育て方とか語りかけ。子どもに対する抑揚のある語りかけなどが世代間で引き継ぎが出来にくくなっている。自分達が育てられている時代に子どもを育てることを学ぶ機会を作る、そういうことも子どもの生き

る力のひとつとして自然体験や保育活動の充実と一緒に、自分達が大人になる前にもう少し子育てのことに触れるような機会をつくるということをどこか文言に入れてほしい。

(委員)

28 ページ主な事業「ひとり親家庭の交流事業」について、事業の内容がディズニーランドに連れて行くというものだと思うが、7.8年位前に上田市も事業仕分けのようなものを行ったときに、ディズニーランドに行くのは申し込んだ方のほんの一部であったり、実際その親子だけで行動して交流がもてないという理由で廃止か変更という結論がでたと思う。またこれが復活したようなので、ひとり親家庭の親御さんの心のケアや、本当に交流できるような事業をまた考えて元に戻していただきたい。

(事務局)

具体的な内容としては、親子のリフレッシュも兼ねてディズニーランドに日帰りでバスツアーをしている。これについては様々な意見があり、これがひとり親の支援に繋がる事業かという問題意識もっている。これを楽しみにしているご家庭もあるので、今年度は内部で検討して2回のところを1回に縮小した。また見直す時期にきていると感じている。

(委員)

25 ページ基本目標Ⅱ〇3つ目、療育の必要な児童が放課後に放課後等デイサービスから児童クラブに移行していくタイミングは、関係機関、学校を含めて調整していく必要があると思うが、実際に調整してもらっているのか。

28 ページの主な事業の中「障がい児巡回指導事業」はまだグレーなお子さんや、ちょっと困った子の相談も受けていると思う。診断名がついていないお子さんもいるので、事業の名前としては「障がい児」としていいのか、検討してほしい。

(事務局)

現在全体的な制度として、放課後等デイサービスから児童クラブへの利用といったものがないが、個々のケースで放課後等デイサービスを使っていたけれど徐々に大人数での対応ができるという場合については、関係者を含めたケア会議の中で、なるべくその地域の多くの児童と交わるようなところへ移行していこうと考えるケースもある。学校教育課の放課後児童クラブの担当者等と検討していきたいと考えている。

「障がい巡回指導事業」の名称については、検討させていただく。

(委員)

33 ページの一番上の〇の下から3行目「教育を受ける機会の均等を図り」という表現があるが、「均等」という表現が適切なのか。経済的に受けられないということをなくすことであって、機会があっても余裕がある人まで影響を受けて均等にすると、均す必要がない。誤解を呼ぶような表現になってしまうので、表現を変えた方がいいと感じたのでご検討いただきたい。

35 ページの教育の支援の三つ目の〇「経済的な理由で小中学校に就学するのが困難な保護者」、

位置づけはそのお子さんを養育する保護者だということを丁寧に表記した方がいい。

(委員)

33 ページの上から二つ目の○、県が実施した生活実態調査票でいう「周辺家庭」という言葉について、一般家庭と、生活に本当に困窮している家庭と、その間にある‘家庭を困窮家庭周辺にある、普通の家庭に比べたら経済状況が厳しいけれども困窮とまでもいかない家庭の周辺になっている’と位置づけている。長野県の生活実態調査の中で使われている言葉で、一般的な学術用語ではないので、一箇所でもいいのでどこかに注釈を入れてほしい。

32 ページ一番上の「子育て中の親が孤立しないよう子育て支援センター事業や利用者支援事業」で、これは 13 事業の事業名で書かれているのか、それとも上田市の独自事業なのか、良くわからなかったなので精査をお願いしたい。

(委員)

基本目標Ⅲ40 ページ「地域子育て支援拠点事業の充実」のところ、今地域子育て支援拠点事業の中で利用者支援事業が行われていたり、他の事業がファミリーサポート事業などとの連携によって幼稚園保育園へ通う前の子達を支える動きが全国的に広まっている。‘拠点の多機能化’と呼んでいるが、他の支援への入り口にもなる、子育てひろばに遊びにきた人達がそこでファミリー・サポート・センター事業の登録をするとか、他の自治体で行っている地域子育て支援拠点で就労支援の相談会が行われるなど、他のものに繋がれる場所としての充実という取り組みを入れるといいと思う。

(事務局)

‘拠点の多機能化’というキーワードの元に、子育てひろばに来るお父さんお母さんにとっていろいろな情報が入手できる場であることが大切かと思うので、取り込める表現を追記したいと思う。

(委員)

基本目標Ⅳ48 ページの「住宅に困窮している」という表現について、確かに困窮というのは困っているという意味ではあるが、感覚的にこの表現でいいのか疑問なので考えてえていただきたい。

50・51 ページ「子どもを事故や犯罪から守る環境づくり」で、道路整備はあるが、犯罪の観点から例えば見通しの悪い住宅の生垣などを見やすくすることに対して行政的な補助がある事業があるのか、あればそういう観点でも進められると思う。

50 ページの 4 番目の○で、インターネット上のトラブルのことがあるが、その使い方、例えば視力を落としたり、健康面での何らかの施策を考えているか伺いたい。

(事務局)

子どもの安全ということへの配慮から見通しの悪い樹木などを伐採することへの補助ということについては、事業としては現状はない。

電子機器による健康への影響という視点も入れたらどうかということについては、子どもの発達段階に応じてメディアとの関わり方を教えているという現状はあるが、目に悪いなどの会話はしていてもやはり主体は関わり方、という面があると思うので、養護の先生などに重点的に広がりをもって子どもたちに教えていくようなことを加味していくようになっていくようになっていけばと思う。

(事務局)

御意見いただいた内容については事務局側で検討し、正副会長、部会長に了承していただいて修正案としたい。修正した箇所については郵送等で連絡したい。

(3) その他

事務局より説明

理事者への中間報告：11月22日

パブリックコメント：12月16日から1月15日

4 事務連絡

次回日程内容確認

5 閉会